

企画展

アラスカ遠征のパイオニア

明治大学アラスカコレクション



観覧無料

2005.2.5(土)-3.27(日)

- ◆休館日 月曜日 (3/21は開館)
3/22 (火)
- ◆開館時間 9:30-16:30
- ◆観覧料 無料

主催 北海道立北方民族博物館

協力 明治大学政治経済学部
明治大学博物館
明治大学大学史資料センター
矢島國雄氏 山内健治氏
岡 千曲氏 岡田淳子氏



北海道立北方民族博物館

Hokkaido Museum of Northern Peoples

〒093-0042 北海道網走市字潮見309-1
(天都山・道立オホーツク公園内)
TEL 0152-45-3888 FAX 0152-45-3889
<http://www.ohotoku26.or.jp/hoppohm/>



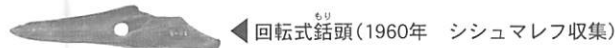
アザラシは海岸エスキモーの主要な食料。アザラシの解体処理は全て女の仕事/ポイント・ホープ(1960年撮影)



クジラの皮を食べる子どもたち/ポイント・ホープ(1960年撮影)

海の世界

ポイント・バロー、ポイント・ホープ、シシュマレフ
民族班は、ポイント・バロー、ポイント・ホープなど、海岸部のエスキモーの村を訪問し、伝統的な海獣狩猟文化や急速な生活スタイルの変化を調査しました。



◀ 回転式鉋頭(1960年 シシュマレフ収集)



ホットスプリング遺跡。現在は全くの無人。日本人による当地での発掘は、岡田宏明氏(当館第二代館長)に引き継がれ、1984年まで続いた/ポートモラー(1960年撮影)

アラスカ半島

ホット・スプリング遺跡へ
考古班は、アラスカ半島のポートモラーに位置するホット・スプリング遺跡の発掘調査を行いました。以前から日本の旧石器時代との類似性に注目していた考古班は、アジアからの人類の拡散や、エスキモー文化の解明につとめました。



観光みやげ用トームボールを作る/ケチカン

事前調査

アンカレジ、ケチカン、ジュノーへ
民族班は、北西海岸インディアンの伝統的な生活と欧米文化の影響による文化変容、隣接するエスキモー文化との関係などを2週間にわたって調査しました。



ナイフ ▶ (1960年 アンカレジ収集)

1960年、明治大学は創立80周年を記念して、アラスカに調査団を派遣しました。その目的は、日本文化の形成に関わったとされる北方地域の文化を調査することにあります。

この調査以降、人類学・考古学・言語学など、さまざまな分野の日本人研究者による調査が進められ、アラスカ研究が本格化しました。

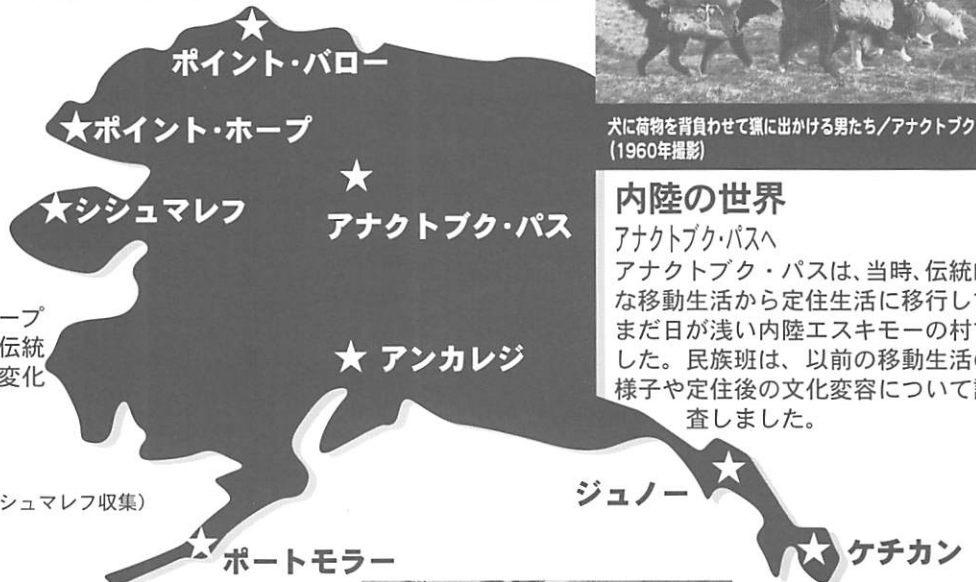
本展では明治大学アラスカ学術調査団【民族班】【考古班】の調査内容と、当時の収集資料を紹介します。



内陸エスキモーにとってカリブーは最も大切な食料。罾に干してあるのは保存用の肉/アナクトブック・パス(1960年撮影)



犬に荷物を背負わせて罾に出かける男たち/アナクトブック・パス(1960年撮影)



内陸の世界

アナクトブック・パスへ
アナクトブック・パスは、当時、伝統的な移動生活から定住生活に移行してまだ日が浅い内陸エスキモーの村でした。民族班は、以前の移動生活の様子や定住後の文化変容について調査しました。

◀ 表/上 雪メガネをつけたエスキモーの老人/アナクトブック・パス
下 ホッキョククジラの下顎骨で囲まれた墓地/ポイント・ホープ

民族の呼称・表記について
各民族の呼称は地域によって異なったり、時代によって変化したりしてきました。本展ではアラスカにおける民族名の総称にならない、【エスキモー】、【北西海岸インディアン】と表記しています。

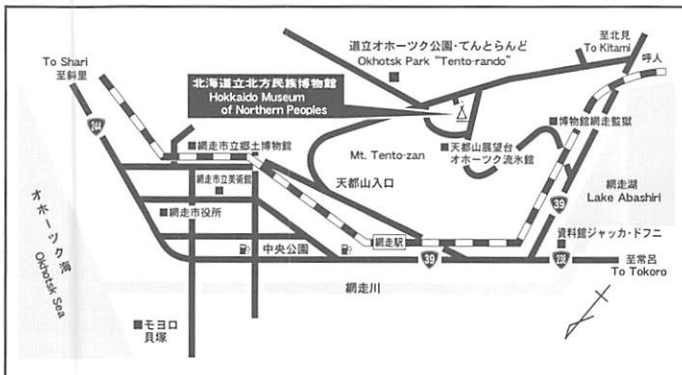
関連講演会 2/5(土) 13:30-16:00 当館講堂

極北の地：ALASKA—過去／現在

講師 矢島國雄氏(明治大学文学部教授)
講師 山内健治氏(明治大学政治経済学部教授)

(道民カレッジ連携講座2単位)

「日本人によるアラスカ考古学」
「明治大学アラスカ学術調査団とその後」



北海道立北方民族博物館
Hokkaido Museum of Northern Peoples

〒093-0042 北海道網走市宇潮見309-1

(天都山・道立オホーツク公園内)

TEL 0152-45-3888 FAX 0152-45-3889

http://www.ohotoku26.or.jp/hoppohm/